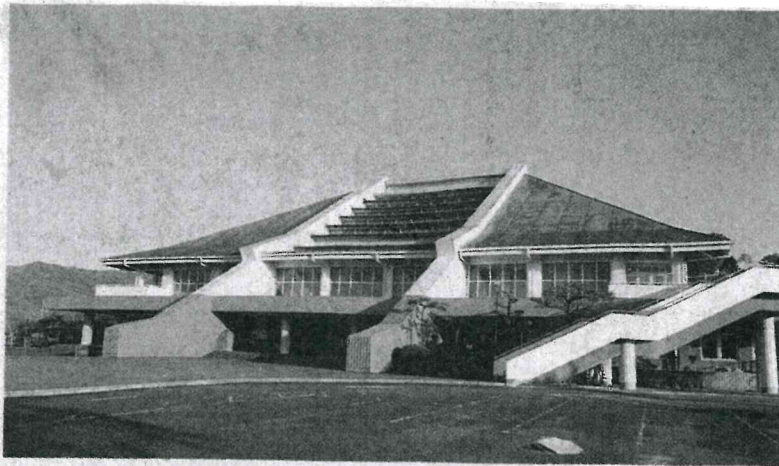


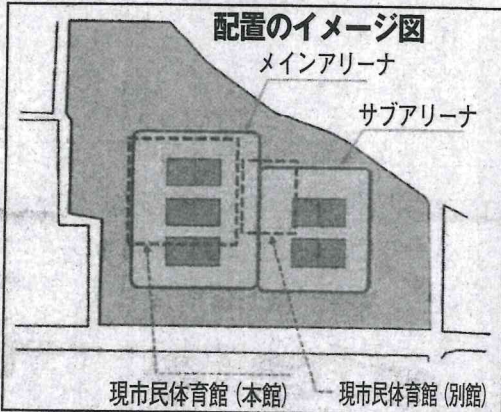
延岡市民体育館を解体

敷地にメイン、サブアリーナ新設

県は28日、2026年の2巡目国体に向けた県有主要3施設整備のうち、延岡市民体育館敷地に同市と共同建設する体育館について、既存体育館を解体し、メインとサブの両アリーナを新設する整備方針を明らかにした。県議会総務政策常任委員会（松村悟郎委員長、8人）に報告した。



現在の延岡市民体育館（延岡市大貫町）



国体準備課によると、延岡市との協議の中で、市民体育館をサブアリーナとして存続させる案も検討したが、市民体育館が39年前の1979（昭和54）年宮崎国体に合わせた造られており、長寿命化を図る経費負担の増大などが懸念されることから新設することとした。

整備は先にサブアリーナを造り、使用開始後に

市民体育館を取り壊し、その跡地にメインアリーナを建設。市民体育館の稼働率の高さを踏まえ、市民の利便性が制限

されないよう配慮する。メインアリーナはバスケットボールコート3面を確保し、観客席は固定席2000～3000席、可動席1000～2000席程度を想定。サブアリーナは同コート2面で、観客席数は今後検討する。バリアフリーにも対応する。

駐車場は敷地内と近隣に、現在の2.5倍の約800台のスペースを確保する。国体時など多数の来場者がある場合は、周辺の公共施設（市消防本部など）駐車場の活用も検討する。

延岡市は、市民体育館敷地に建設される県体育館の整備方法について市民の意見を募集している。

延岡市

意見は同準備室の窓口へ提出するか郵送、ファクス、電子メールで。問い合わせは同準備室（☎

000席程度を想定。サブアリーナは同コート2面で、観客席数は今後検討する。バリアフリーにも対応する。

業務や事業手法、整備スケジュールなどを盛り込んだ基本計画を取りまとめる方針。併せて、延岡市と事業費の負担割合なども検討する。

る。12月11日必着。資料は市教委県体育館整備準備室、情報公開センター、北方、北浦、北川町の総合支所市民サービス課と市教委分室、市民体育館、市立図書館、エンクロス、各コミュニティセンターなどで閲覧